

日本オーステイン協会 第15回大会案内

2022年6月25日（土） 13：00～17：10
Zoomによるオンライン開催

日本オーステイン協会

プログラム

- 日時：2022年6月25日（土）13時より
- 場所：オンライン（Zoom）
- 参加費：日本オーステイン協会会員：無料
日本ジョージ・エリオット協会会員：無料
当日会員：一般1,000円、学生500円
(協会指定の口座に振込が必要)
- ◆開会の辞（13:00～13:05）
久守 和子（日本オーステイン協会会長）
- ◆総会（13:05～13:35）
- ◆研究発表（13:40～14:20）
司会：廣田 美玲（獨協医科大学助教）
発表：畑中 杏美（弘前大学講師）
「『エマ』における老いとケア」
- ◆休憩（14:20～14:30）
- ◆日本オーステイン協会・日本ジョージ・エリオット協会
共催シンポジウム（14:30～17:00）
「アン・ラドクリフ再考— 作品が生まれた土壌とその影響」
司会・講師：三馬 志伸（日本オーステイン協会）
講師：大河内 昌（東北大学教授・日本オーステイン協会）
講師：小川 公代（上智大学教授・日本オーステイン協会）
講師：木村 晶子（早稲田大学教授・日本ジョージ・エリ
オット協会）
- ◆閉会の辞（17:00～17:10）

研究発表

『エマ』における老いとケア

畑中 杏美（弘前大学講師）

ジェイン・オースティン(Jane Austen, 1775-1817)の『エマ』(Emma, 1815)は、若者たちの恋愛や結婚にまつわる人間模様だけでなく、田舎教区で暮らす人びとの「ケア」の営みを読み解くことのできる作品である。昔は豊かな暮らしをしていたベイツ母娘は元教区牧師であった家長を亡くして零落し、儉しく暮らしており、母親のミセス・ベイツは「かなり高齢の女性」(“a very old lady”)で、娘のミス・ベイツが老齡の母親を世話している。地主であるウッドハウス家とナイトリー家は、ベイツ母娘を訪問し、ときに食料を施して、彼女たちの暮らしを支えていた。さらに、エマと婚約したナイトリーは、結婚後はエマの実家で「年齡よりもずっと老けた」(“a much older man in ways than in years”)エマの父親であるウッドハウス氏と同居することになる。本発表では、加齡や老い、そしてケアを与える／受ける人びとに注目し、うら若き女性であるエマにとってさえ他人事ではなかったケアの問題を『エマ』に読み解きたい。

シンポジウム

日本オーステイン協会・日本ジョージ・エリオット協会共催

アン・ラドクリフ再考—作品が生まれた土壌とその影響

司会・講師：三馬 志伸（日本オーステイン協会）

講師：大河内 昌（東北大学教授・日本オーステイン協会）

講師：小川 公代（上智大学教授・日本オーステイン協会）

講師：木村 晶子（早稲田大学教授・日本ジョージ・エリオット協会）

アン・ラドクリフが18世紀末から19世紀初頭にかけてのゴシック小説大流行の立役者であったことはつとに知られるところで、また、その後のミステリーやホラー小説の発展にも多大な影響を与えたことも今日では広く認識されている。しかし、ラドクリフという作家の重要性は、決して恐怖小説という文学のサブジャンルの中だけにとどまるものではない。ホレス・ウォルポールやクレアラ・リーヴらの恐怖小説を受け継いだというだけでなく、バークの美学理論を根底に据え、18世紀後半に礼讃された「感受性」の問題に真っ向から向き合うなど、その作品はこの時代の思想的背景に深く根を下ろしているのであり、そうして練り上げられた重厚な物語は、単なる恐怖小説の枠を超えて、同時代および後の世代の文学全般に亘って大きな影響を及ぼしてきたといえるのである。今回のシンポジウムでは、そうしたラドクリフ作品の持つ意味を、いろいろな角度から改めて吟味し検討してみたいと考えている。

ゴシックと道德哲学 ——家庭小説として『ユドルフォ城の怪奇』を読む

大河内 昌

アン・ラドクリフの小説の特徴は、ゴシック小説の枠組みの中に若い女性の成長と結婚を描く家庭小説のプロットを組み込んだことにある。この結合によってラドクリフは作家としての人気と尊敬の二つを手に入れることに成功した。家庭小説とは、リチャードソンからオースティンに流れてゆく小説のサブジャンルで、美德あるヒロインが望ましい結婚というかたちで「美德の報い」を受ける物語である。美德ある女性を描く家庭小説は、洗練された感受性という「女性的な美德」によって社会秩序を構築しようとする道德哲学のプロジェクトと共通する要素が存在している。今回の発表では『ユドルフォ城の怪奇』に見られる家庭小説的な筋立てと道德哲学の関係を分析し、この作品においてゴシック小説と家庭小説の結合がどの程度成功しているのかということを考えてみたい。また、家庭小説のひとつの完成形であるオースティンの小説とラドクリフ作品の違いから見えてくる文学史的意味についても考察する予定である。

『ユドルフォ城の怪奇』と医科学言説——死者から生者へ

小川 公代

アン・ラドクリフの『ユドルフォ城の怪奇』では、超自然現象と思われる場面が死者の再訪などではなく、合理的な説明が与えられる。それは、個人の感受性／感覚性（sensibility）とそれがもたらす想像力が重要視された医科学言説と地続きであるだろう。十八世紀の神経医学の勃興により、身体感覚性や生気論的な生理学への関心が高まったことにより、デカルト主義の二元論が疑問に付され、自然科学の領域（無生物の機械作用）と人間の精神の領域（人間の道徳的行為）とのあいだの溝が埋められたともいえる。人間や動植物のような有機体が外的な「刺激」にどう反応するかが予測不能であることも意味する。感受性は、破壊的、あるいは危険なまでに制御不能といった負の作用を生み出すことがある一方、他者の苦しみを感受する道徳感情の表れとも認識される。本発表では、ラドクリフ作品がいかに死者ではなく、有機体の生命運動を描こうとしていたかに注目する。

オースティンとラドクリフ
——『ノーサンガー・アビー』は『ユドルフォ城の怪奇』の
パロディーなのか？

三馬 志伸

ジェイン・オースティンの『ノーサンガー・アビー』は、ゴシック小説、特にアン・ラドクリフの作品のパロディーであると見られることが多いが、オースティンがこの作品で試みようとしたのはほんとうにただのパロディーだったのであるだろうか。確かに物語の後半において、ゴシック小説にかぶれたキャサリンは、妄想をたくましくして頓珍漢な勘違いを重ね、しまいにはティルニー将軍に妻殺しの嫌疑までかけ、ヘンリー・ティルニーに手厳しい説諭を受けるのであるが、それだけをもってこの作品を「パロディー」と決めつけるのはいささか早計であるような気がしてならない。今回の発表では、『ユドルフォ城の怪奇』をはじめとするラドクリフの小説の特徴を考慮に入れながら、『ノーサンガー・アビー』において作者がラドクリフ作品をどのように扱っているのかを改めてじっくりと検討し、オースティンにとってラドクリフという作家はどういう存在であったのか、そしてこの作品におけるオースティンの真の狙いは何だったのかを探ってみたいと考えている。

ラドクリフとヴィクトリア時代の女性作家たち — 『ユドルフォ城の怪奇』の文学的遺産

木村 晶子

18世紀末のゴシック小説ブームは1810年代には終焉を迎えたとはいえ、絶大な人気を誇ったアン・ラドクリフの文学は、後のヴィクトリア時代の女性作家たちにも少なからぬ影響を与え続けた。「ゴシックの女王」と称されたラドクリフの小説は、超自然現象に見えたものには合理的説明をつけ、恐怖を掻き立てることより、ヒロインの恐怖の克服と感受性の抑制を重要なテーマにしている。ロマン主義的想像力と、女性に要求された道徳性の稀有なバランスを追求した文学とも捉えられるのではないだろうか。孤独なヒロインが、さまざまな逆境や監禁状態を乗り越えて、精神的成長を遂げるラドクリフの主題は、ヴィクトリア時代には、より意識的な女性の自我と自立の問題として探求されてゆく。今回の発表では『ユドルフォ城の怪奇』に焦点を当て、ラドクリフの文学的遺産が、シャーロットとアン・ブロンテ、ギヤスケル、エリオットの作品にも見られることを考察したい。

開催方法について

日本オースティン協会第15回大会では、ウェブ会議サービス『Zoom』（<https://zoom.us/>）を利用したオンラインでの研究発表及びシンポジウムを開催します。以降の頁では、研究発表及びシンポジウム参加のために必要な準備等について紹介します。

なお、実際の参加者の皆様の端末や通信環境は多様であると想像されますが、ここでは操作環境を限定して説明すること、また、最小限の操作方法のみを示していることを予めご了承ください。

また、Zoomのより詳細な使用方法是公式のヘルプセンター（<https://support.zoom.us/hc/ja>）をご参照ください。

参加に必要な機材等

オンライン大会への参加に当たり、以下の機材等を準備ください。より詳細なシステム要件は公式のヘルプセンター（<https://support.zoom.us/hc/ja>）をご参照ください。

- PC、タブレットなど
- スピーカー、イヤホン
- ウェブカメラ ←**発表者、司会者は必須**
- マイク ←**発表者、司会者は必須**
- インターネット環境（発表者、司会者は有線推奨）

※スピーカーの音声マイクに入力されることによる**エコーやハウリング防止のため、イヤホンやヘッドセットの使用を推奨**します。

※端末にスピーカーとマイクが内蔵されている場合もマイクがスピーカーの音を拾うことがあるため同様です。

Zoomクライアントのインストール

参加に先立って、ミーティングルームに接続するための専用クライアント（アプリ）を以下の手順でインストールしてください。

※大会開始前までにインストールをお願いします。

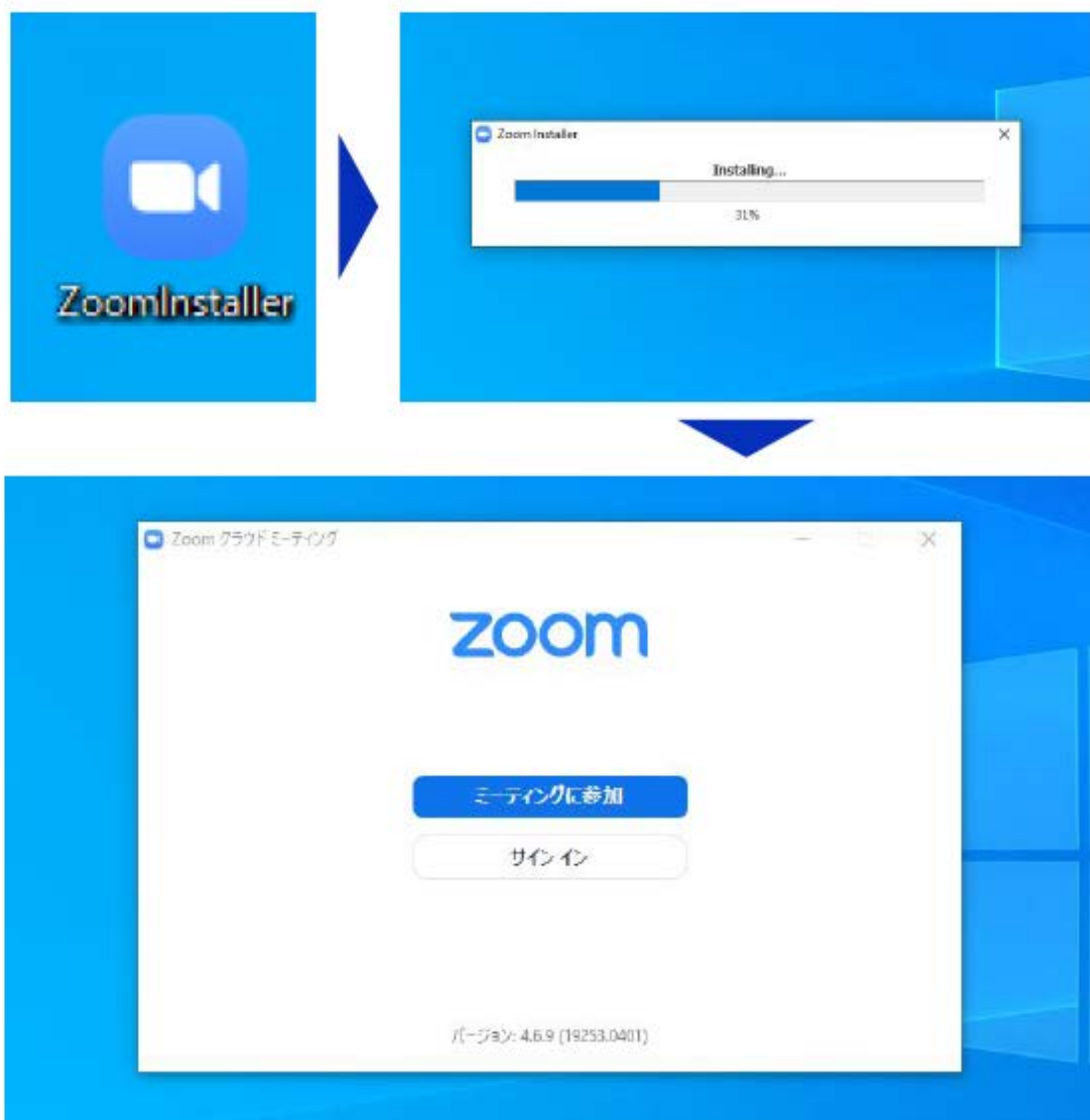
※セキュリティ確保のため、インストール後は常に最新版にアップデートするようにしてください。

①Zoomクライアントのダウンロード

公式サイト（<https://zoom.us/download>）にアクセスし、ミーティング用Zoomクライアントをダウンロードします。

② インストーラの実行

ダウンロードしたインストーラを実行すると自動的にインストールが進みます。最後に下図のウィンドウが表示されれば完了です。なお、**“サインイン”はミーティングへの参加には不要**です。



カメラ、スピーカーマイクの動作確認

クライアントのインストールが完了したら、以下の手順でスピーカとマイクの動作確認をしてください。

①テスト用URLに接続

ウェブブラウザでテスト用サイト（<http://zoom.us/test>）にアクセスし、“**参加**”をクリックします。

クライアントをインストール済ならば、ポップアップが表示されるので“**Zoomを開く**”をクリックしてください。

②カメラのテスト

クライアントが立ち上がり、ビデオプレビューが表示されるので、ウェブカメラが動作していることを確認し、“**ビデオ付きで参加**”をクリックしてください。

③スピーカーのテスト

次に、着信音が鳴るので聞こえたら**“はい”**をクリックします。聞こえない場合は、正しいスピーカーが選択されているかドロップダウンリストで確認してください。

④マイクのテスト

最後にマイクテストのウィンドウが表示されます。マイクに話しかけると、数秒後にスピーカーから話した音声再生されるので確認できたら**“はい”**をクリックします。

⑤完了

「スピーカーとマイクは良好です」というウィンドウが表示されたら動作確認完了です。その後、**“コンピューターでオーディオに参加”**をクリックするとミーティング画面の操作を体験できますが、ミーティング中の操作については後述します。

ミーティングへの参加

大会前日の6月24日（金）に事務局からメールにて、**“Zoom接続用URL”を送ります。**大会当日は、以下の手順でミーティングに参加してください。

① Zoomへの接続

“Zoom接続用URL”をクリックします。

② 参加者名の入力

はじめてZoomを使う場合、Zoomミーティングで使用する名前を入力して下さい。**参加者名は「氏名（所属）」としてください。**

■ ミーティングへ参加後、参加者名を変更する方法

- ◆ 「参加者」をクリックする
- ◆ 参加者一覧から自分の名前にマウスを近づけ、「詳細」をクリックし、「名前の変更」を選択する。
- ◆ スマートフォン・タブレットの場合は、「参加者」から自分の名前をタップし、「名前の変更」を選ぶ。

③ ビデオプレビュー

Zoomクライアントが起動し、カメラのテスト時と同様にビデオプレビューが表示されますので、“**ビデオ付きで参加**”をクリックします。

④ 入室

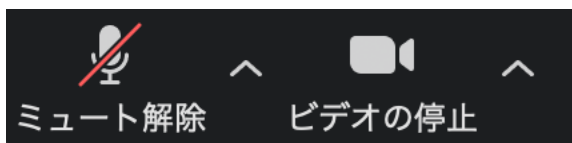
入室が完了するとミーティング画面に移り、下のようなウィンドウが表示されるため、“**コンピューターをオーディオに参加**”をクリックすると入室完了です。

大会前日の6月24日（金）に事務局からメールにて配信する“Zoom接続用URL”は、第三者に絶対に開示しないように注意してください。

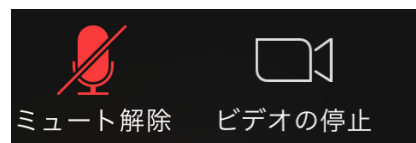
聴講時のマイク・ビデオ設定

聴講時は**マイクをミュート・ビデオを停止**に設定してください。

- 「ミュート解除」、「ビデオの開始」をクリックすると設定を変更できます。



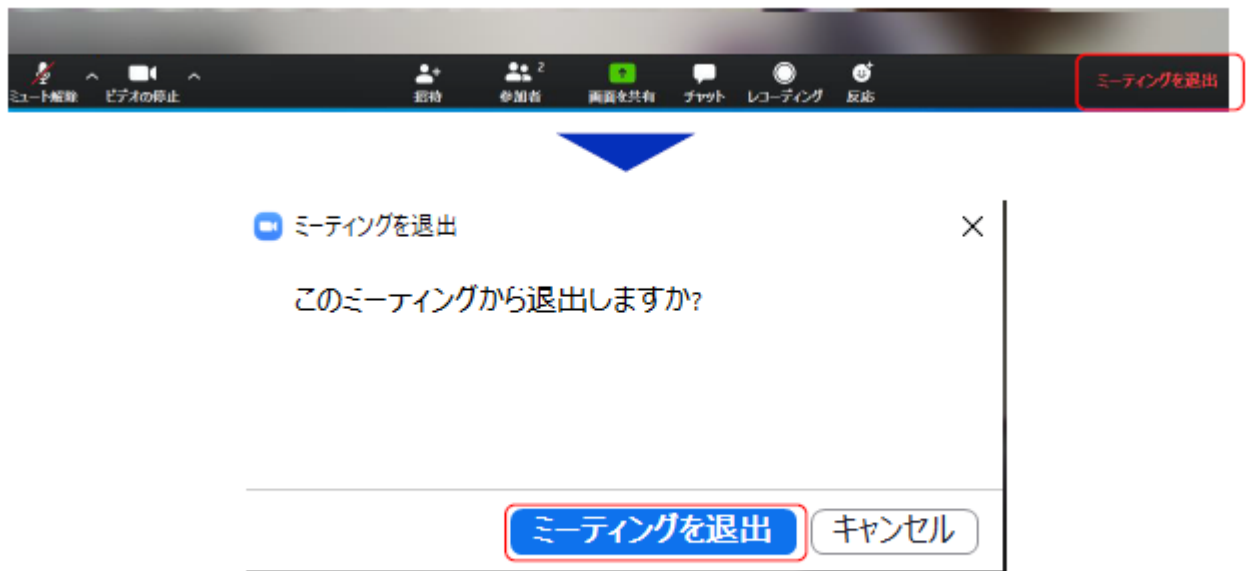
又は



自分の発表や質問時に司会者に指名されたときのみ、「ミュート解除」「ビデオの開始」をクリックしてください。また、発表・発言後は再度ミュート・ビデオの停止にしてください。

退出

セッションの途中で退出したい場合には、ミーティング画面右下の“ミーティングを退出”をクリックしてください。



問合せ先：日本オーステイン協会事務局
〒790-8578 松山市文京町4番地2 松山大学新井研究室内
E-mail: harai@g.matsuyama-u.ac.jp

(※IT環境やZoomに関する説明・質問等はお受けできません。)